

# 礎

いしづえ

発行責任者 白岩孝吉

発行 三春町商工会青年部  
総務委員会

委員長 橋本俊宏

発行日 昭和62年3月1日

## 支部の声(私も一言)

『売上税について』

大町支部

私は二月四日の商工会で行われた講演会で、売上税について、その内容を知りました。

日頃商工会で開催する講演会は、自分の商売に係わって来るものなので、時間の許す限り聴くようにしています。そこで今回は、自分の店には関係ないかな、とは思いましたが、出席した次第です。

そして、この講演会で聞いたところによりますと、メーカー(製造業者)⇩卸売業⇩小売業⇩消費者と各段階で販売が行われますと、年間一億円以上の売上額がある企業は、必ず5%の売上税がかかって来る、ということでした。

そして、この税額については、最終的には消費者即ち受益者へ価格転嫁になるので、各販売業者の収益は変わらない、ということでした。しかし、これはあくまでも取引における力関係によるもので、あらゆる販売業者が価格競争で安売りをよぎなくされている現状では、下請業者や小規模零細な企業といった取引においての弱者は、価格転嫁は不可能であろう、とも話しておりました。

又、売上額が一億円以下の企業でも、仕入に際して売上額一億円

以上の企業から購入すれば、5%仕入価格の高い品物を購入することになりますので、販売価格への価格転嫁が出来なければ、当然荒利益は下がって来ることになりま

す。これに加え、包装資材や運賃などにも5%の売上税が加算される訳ですから、収益は益々少なくなって来る、ということの様です。そして、最後にこの売上税に關しては、三ヶ月に一度、即ち年に四回申告しなければなりませんし、販売する商品は課税品目と非課税品目に分けて計算しなければなりません。更には、仕入れた品目が現在までに、いくらの税金を納めることになり、この分を控除することにより、自分はいくらの税金を納めれば良いのか計算しなければなりません。これでは事務量が増え、大変な労力がかかることになります。

以上でもわかる様に、売上税が導入されますと、我々零細な業者は益々苦しくなっていく訳であります。

それ故、商工会はあらゆる方面に働きかけて、売上税反対の運動を盛り上げて行かなければなりません。また青年部は、売上税が導入された場合を考えて、その対策を練って行かなければならない、と思います。

【売上税額計算例】

(各企業が売上高1億円以上とする)

	販売額	税額	控除額	納税額
製造業者(メーカー)	3,000円	150円	0円	150円
卸売業者	4,000円	200円	150円	50円
小売業者	5,000円	250円	200円	50円
消費者				

※控除額とは、自分が販売した売上額から計算した税額から、それ以前の段階で納付することとなる金額を差し引くことである。

プライバシー保護

## 『三春の内需拡大』

中町支部

去年の八月に東京中野の『商業まつり』に一員として参加し、Tシャツの販売等を二日間担当して来ました。その時に感じたことや、その後の愛姫ブーム（三春だけかな？）についての感想を述べたいと思います。

出発する一ヶ月以上前より、Tシャツのデザインや販売方法について検討し、これはいけると思っていて、意気ようよくと出掛けました。抽せんにより民芸品（三春駒や張子人形）やT E Lカードの当たるくじ引き付きでしたが、考えていたほどは売れませんでした。

自分達では、滝桜や三春駒で有名な三春だぞと自負していても、大都会東京に於いては、三春ひいては福島県のある位置さえ知らない人が多く、全くの思い違いでした。唯、この様な中でも地酒三春駒（黒ラベル）とトコロテンそして田舎味噌は完売でした。食べ物には町境い、県境いは無いようです。

さて、残ったTシャツをどうするか、困りました。そこで役員会に於いてこの処分方法を検討しましたところ、盆踊りで売ってはどうか、ということになりました。観光協会の協力により最も目立つ公民館の前で売ることになりました。そしてどうでしょう。一

日で全て売ってしまったのです。事務局の話では『当日売っているのを見たが、あいにく持ち合わせが無かったので、明日買うことにして翌日行って見たが、もう売っていません。是非おみやげに持って行きたい（あるいは持って帰らせたい）。残っていたら売って下さい。』という電話が後日数多く来た、ということでした。

私は、「あっ、これだ！」と思いましたが、ヒット商品のアイデアがここにある、と思いました。即ち、消費者の需要把握です。自分がかにかに優れた商品を作ったと思っただけでも、その販売する場所として販売する客層を見誤れば、いくら良い商品でも倉庫に眠らせなければならぬ、と言うことです。しかしひらめいたのは良いのですが、この把握は非常に難しいものです、よく造る側の人間は、自己満足に落ち入り易く、状況判断が出来ない、という事を聞きませんが、我々頭脳の柔かい青年は、多くの場に参加することにより、柔軟な頭脳を維持して行かなければならぬ、とあらためて痛感致した次第です。

話しは変わりますが、人に言わせると三春は今、『愛姫ブーム』なのだそうです。

『地酒愛姫・張子の愛姫人形・愛姫菓子そして愛姫の湯』の他にもたくさんある様です。もし、これらが全て当たれば、三春はまさに内需拡大であります。しかし、

ブームというものは、長続きしたことはありません。となれば我々商人は、低成長時代が続く将来を見込んで、これをブームで終わらせることなく、団結して長続きするものにして行かなければなりません。これが長続きするということは、内需拡大を続けるということだと思っております。

これはあくまでも一例です。愛姫ばかりが内需拡大の要因ではないでしょう。要は、知名度が出て来たこの機会に、三春に住む人あるいは三春に来る人の需要を把握し、これを基にして、Tシャツの場合の様に、『持って帰りたい・持って帰らせたい』と思わせる商品を地道に作り続ける、ということではないでしょうか。

今現在、三春は単なる東北の『一町村』であります。『愛姫の里三春』ということが、『ニコニコ共和国』や『キリキリ国』の様に定着するとなれば、おのずと外部の人々が見る目は違ってくると思うのです。そのためにも、我々青年部の活動は今以上に大切になって来るのではないのでしょうか。

今から四百年近くも前の戦国時代に活躍し、三春が最も光っていた時代をつくった田村氏への思いに、歴史離れを起こしている若者をも引き込み、自分の住んでいる町『三春』を再考させはじめている『愛姫さま』。これが需要拡大に結びつくのであれば、NHKの愛姫さんは、益々めんごいですね。

## 荒獅子・火男踊り in 中野サンプラザ

荒町支部

この一年間の荒町支部の活動は、と振り返ってみると、なんといっても本部事業である『中野商業まつり』のイベントへの参加に尽きるような気がします。

当初、この話が本部役員によって支部へもたらされた時は、他支部もそうであったように、相当の困惑があったように思われます。特に長獅子・火男・出店等の具体的な内容が提案されるに至って、支部の意向を聴取し、かつ、本部役員の方々が連夜検討する、という風に順序を踏んだ申し分ない企画なのではありましようが、果してやりきれぬのだろうか、という不安はありました。

荒町に於いては、天神様の夏まつりの直後であり、かつ、商売上では盆前の最も忙しい時期にあたり、自分の商売をほったらかして、中野くんたりまで、言わば他人の商売の助っ人に行く様な事業に員数の確保ができるのだろうか。特に長獅子に関しては、青年部員はもとより荒獅子保存会の全面協力がなければ、実施しえない話でもありました。これに加え、町内より外に出たことのない箱入り娘である荒獅子を、中野の広場でどのように演出したら良いのか、という不安もありました。そして、経

プライバシー保護

費の面での問題もあります。

しかし、一担事業が決定される  
と、支部長はじめ支部員が一丸と  
なって、これらの困難にひとつひ  
とつ手が打たれていきました。前  
代未聞の獅子頭の借り出し、保存  
会への協力依頼、中野会場の下見  
打合せ、火男踊の練習、員数確保  
(荒町支部あつかいの参加者三十  
五名でした)等々。

実際中野へ行ってみると、多少  
のとまどいや手違いはあったもの  
の、中野側の受入れ担当者がいろ  
いろ骨折下されたので、なんと  
かやりとげてきました。とりわけ  
福島県内には見られない大ショッ  
ピング・ビルたるサンロード内商  
店街の中で、獅子舞を舞う許可を  
各商店の協力により得ることが出  
てきました。予想外のハナがありが  
かつ、荒獅子本来に近い動きが出  
来たことは幸いでした。なんとい  
ってもサンプラザ前の広場だけで  
の獅子舞では、時間と気持が持ち  
切れなかった、と思われるからで  
す。

この事業は、種々の反省点はあ  
るもの、おおむね成功裡に終わ  
った、と言って良いと思います。  
参加者個々の体験としても、なに  
かしらの糧として残っているもの  
と思います。

本部役員・保存会・火男の皆さ  
ん、本当にお世話になりました。

一九八六年夏・君の中野は燃え  
ていたか！

### 『ささやかに盆と正月』

#### 報告

##### 八幡町支部

昨年の大晦日に、八幡町の氏神  
様である八幡神社(雁木田地内)  
境内において、八幡町民謡保存会  
主催・『ささやかに実行委員会』  
(会長は大内洋前青年部八幡町支  
部長)後援による『ささやかに盆  
と正月』が実施されました。

この企画は、昨年の十二月十八  
日に開かれた商工会青年部八幡町  
支部員と八幡町若連の人達との合  
同会議の席上で、

『なにか地元の為になることを  
やってみよう。それには営利は別  
として、自分達で出来る身近な事  
を出発点にしよう。』

との意見が出たことから急に始ま  
ったものなのです。

そして、これを八幡町民謡保存  
会の六十一年度納会の企画に合わ  
せ、『元朝参りの人達の為に、八  
幡町神社の参道・境内に照明を入  
れ、もつと地元の神社にも参拝し  
てもらおう。』との主旨により、  
計画を練り上げて行きました。

この計画の実施に際しては『さ  
さやかに実行委員会』が組織され、  
そのメンバーには、八幡町若連・  
八幡町消防団・八幡町商工会青年  
部、および各団体のOBの方々  
が参加されました。

当日は、神社に照明をつけるだ  
けではなく、アトラクションとし

て「モチつき」そして、参拝する  
人達の為には、「甘酒・御神酒」  
も用意しました。

大晦日は、午後三時より準備を  
はじめ、雨除けテントの設置、照  
明の取付け等の準備が終わったの  
が午後六時でした。そして、OB  
の方々から差し入れていただいた  
モチ米と、ウス、キネ、大型発電  
機等を使用して、十一時三十分  
に『ささやかに盆と正月』が始ま  
りました。

かがり火の燃える中、アトラク  
ションのモチつきが、大内洋委員  
長の一番キネで始まり六升のモチ  
がつきあげられ、鏡モチとして八  
幡神社に奉納しました。又、保存  
会による太鼓演奏も十二時から始  
まり、これを合図にしたかの様に  
参拝の人達が、境内につめかけ始  
めました。

この日の参拝者数は約百五十名  
程度で、全員に甘酒・福モチを配  
りました。

参拝者の人の中には、『境内の  
方がにぎやかだったし、参道も明  
るかったのでよかったです。』とい  
う風に、何も知らずにやって来た  
方もおりました。

『来年も是非やって欲しい。』  
との声を多く耳にしたことは、本  
当にうれしいことでした。

実行団体の関係者では、『年末  
に入ってから企画ではあったが、  
まずは成功した企画だった。』

『この実行委員会を主体に、尚一  
層の発展を期したい。』といった

反省・要望が出されました。

私としては、大晦日の夜にかが  
り火を囲み、地元保存会の太鼓の  
音を地元の神社で聴きながら、新  
年の挨拶を交わす、という風にい  
つもと違った形の新年を迎えた  
ことは、なにかコミュニケーション  
の輪が広がって行く様な感じを  
受け、昨今よく言われている浮わ  
ついたものではない「地域づくり」  
というものの原点を見た様な気が  
しています。

まさに、世間は紅白歌合戦ある  
いは白虎隊といった一年で最も多  
忙な日に、人と人との連がり、人  
と人との輪をあらためて認識させ  
られた企画でありました。

#### ※ささやかに盆と正月報告

##### ◎実施日

昭和六十一年十二月  
三十一日午後十一時  
三十分より昭和六十  
二年一月一日午前一  
時三十分まで

##### ◎参加者

八幡町民謡保存会 二十八名  
八幡町若連 十名  
八幡町消防団 十名  
商工会八幡町支部 十一名  
各団体OB 十一名

## 若者よ、もつと

### 政治に関心を!

北町支部

若いのだから  
もつと政治(行政)に関心を持ち  
ある意味では  
もつと遊ぼう!

とにかく政治と言うものは暗いもの、一般の日常生活からはかけ離れたもの、などとあまり良いイメージはないが、だからと言って無関心でいて良いのでしょうか。

私は、次の様に思います。

少し前までは十年一昔と言っていました。しかし今は五年一昔、はたまた三年一昔になるうとしています。世の中の進むテンポは従来になく早くなって来ています。

この様な世の中にあつては、一部のエリートマンが掌握している

政治・行政に於いても万能とは言えなくなつて来ています。とすれば、我々青年はもつと政治に関心

を持ち、国際的(世界)に見て、あるいは日本全国から見て生まれ

育つた地域はどの様なものなのか、あるいは生まれ育つた地域がどの

様な位置にいるのか、将来どの様な方向に進んで行こうとしている

のか、を知つていかなければならぬのではないのでしょうか。その

ためにも、地域で目標としている将来像とはいかなるものなのかを

知り、ひいては政治(行政)にも

つと関心を持たなければならぬ

のではないのでしょうか。

積小為大と言う言葉もあるように、物言はいきなり大きく変わるものではありません。生まれ育つた地域のために、まず小さな事柄から実践していく事が大切かと思

います。そのためには、商工会員諸兄もまだまだ若いのだから、も

つともつと遊ばしましょう。

全町あげての

マージャン大会・将棋大会・凧

上げ大会などをやる。

年一回全町あげて町民全員参加の

地域性を生かしたイベントをやる。

① 自家用車に水性のペインティ

ング又は自家用車にデコレーシ

ョンをして、各字・各商工会・

各事業所・各商店街などの対抗

で町内をパレードして賞金を出

す。並びに町長杯・商工会杯な

どの懸賞を付けて年中行事にす

る。

② 地域の自然にマッチしたイベ

ントを行う。

イ、冬に大型そりすべり大会

ロ、同じく冬に町営グラウンド

にて雪像大会

ハ、その他(七夕大会など)

など、まだまだ若いのだから、も

つともつとおおいに遊ばしょう。

## 『委員会制度を考える』

新町支部

商工会青年部には総務・体育・厚生・教養・経営対策の六委員会があることは、部員全て衆知のこととであります。

各委員会が年間幾つかの事業を行つている訳であるが、いまひとつ盛り上がり欠けるような気持に出席しても、出席者は三十名程度で本部役員を除くと二十名位です。現在の部員数を約九十名として、三分の一の出席数ということになります。

四年前に委員会制を採用したのは、部員は六つの委員会の何れかに必ず所属することによって、本部役員のみが企画、立案及び実行・参加する青年部ではなく、部員全員参加の青年部にすることが目的であった、と聞いております。それを思うと、せめて部員の過半数は参加して欲しいものです。

なぜ、各委員会の事業に出席者が少ないのだろうか。それは事業内容に魅力がないからだろうか。あるいは、自分の委員会ではないから、という気持ちが出席率にあらわれているからだろうか。もし、この様な気持ちが心の片隅に少しでもあつたら、商工会青年部は発展しないと思う。

けの良い組織が毎年増えて行く中で、本来、自分が生活して行くのに最も大切であるはずの商工業活動に、興味を持ってないというのは、どういふものなのでしょうか。

事業実施に際しては、各委員会の役員の方々(あるいは本部役員)が夜遅くまで打ち合わせし、それも数回集まって、事業内容を充実したものにしよつとと考えて、作つていくものです。その労苦に報いる為にも、ほかの委員会の皆様も極力協力して欲しいと思います。又、それでこそ各委員会の連帯も出来、商工会青年部の発展にもつながると思うのですが、いかがでしょうか。

## 事業主の退職金制度

### 小規模企業共済

事業主が事業をやめたり、役員を退職した場合など第一線を退いた時の生活安定をはかるために、国が作った事業主の退職金制度です。(申込みは商工会へ)

#### — 制度の特色 —

- (1) 掛金は全額が所得控除となり、課税対象から除かれます。(節税に役立ちます。)
- (2) 共済金は退職所得として取扱われるので、控除額が非常に大きくなります。
- (3) 共済金額は法律により定められていますので、支払いは最後まで政府が責任をもっておりますので安全・確実です。
- (4) 事業資金の貸付制度が利用できます。

プライバシー保護

# 「中野商業まつり」参加報告

昨年の八月二日から三日にかけての一年で最も多忙な時期に、部員の皆様ばかりでなくOBあるいは荒獅子保存会の人々のご協力により、東京は中野の「商業まつり」に参加してまいりました結果について、ご報告致します。

八月二日・三日は我々工商业者にとって、盆前の一年で最も多忙な時期であり、自分の商売を投げ出して行方様な事業を計画することには、疑問である。あるいは、電話帳であげた収益を、ひとつの事業で全て使ってしまう様なことは良くない等、数々の意見をいただいた訳であります。本部役員



と致しましては、日帰りによる参加を考えて、出来るだけ営業に負担がかからない様にしたつもりです。又、経費の面についても役場のご協力を得て、無料で宿泊できる集会所や個人宅にお世話になり、できるだけ節約したつもりであります。役員はじめ参加者一同、一生懸命頑張って三春町をPRして来ましたので、ご了承願いたいと存じます。

さて、この中野商業まつりですが、中野区内にある商店会が大同団結し、フラッシュユマンショー・青空はるおのチャリティバザー・



郡上おどりをメインに実施された一大商業イベントであります。商店会所属の会員は執行部の手は一切借りずに、自ら模擬店に品物を揃え、アルバイトを使って販売することで、商業まつりににぎわいを添えておりました。私達が見ていた範囲内では、飲食を扱った店を除くと、アルバイト料を支払ったら、ほとんどの模擬店は赤字のようでした。売れもしないのに、どうしてやるのかなあーと思っていたのですが、出店者に聞いてみますと『自分達の代表者が、自分達商業者が主体となって行う事業を、会員のために良かれと思って計画したのだから、協力するのがあたりまえだ。』という答えが返ってきました。この言葉を聞いて、ああ、なるほどなあーと感じまし

た。この考え方は、あらゆる団体が、あらゆる事業を実施するのに際し、基本となる考え方ではないでしょうか。会員は自分達の代表者を信頼し、代表者はその会員のためになることを企画する。この考え方故、アルバイトを使って売るほどでも無いのに、参加協力している様なのであります。又、裏話として、隣接する吉祥寺や高円寺、はたまた新宿等へと、区民の消費が流出するので、これの防止のためもある。これに加え、夏休みに入って、海、山へと旅行する家族が多くなるが、このイベントを実施することにより遠くに遊びに行かなくとも子供連れで楽しめ、なおかつ、地元商店の売上の拡大にもなる、との話しも聞きました。これは、三春町の大型化だ



なども感じ、やはり来てみるものだな、と思いました。前置きが長くなりましたが、これに参加した我々三春町商工会青年部のことについて述べます。この話が町役場からあったのが六月でした。役員会に於きまして、ただ品物を売りに行くのであるならば、別に我々青年部が行く必要はない。直接業者の人達が行けば良い、という話になりました。そして、我々が行くとしたら、それはこの三春町をPRして来ることだけだ、との結論になりました。そして、この線に沿って企画立案し、支部に持ち返って実行可能かを検討してもらい、その結果、催し物として荒町の長獅子舞を披露して来ること、これに加え、ひょっと踊りも舞うことになりました。



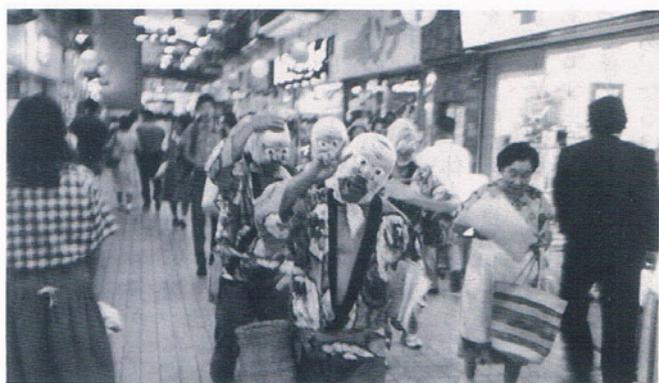
た。又、模擬店では佐藤酒造さんの協力を得て地酒の試飲会を行い、トコロテン、Tシャツの販売に加え、張子面への絵付け教室を開くことに決定しました。

打合せや練習を行った上で、八月二日には早朝五時三十分集合出発、車中の飲酒もひかえ（眠っただけかな？）一路サンプラザを目指し、意気揚々と出かけました。この日は土曜日ということで、道路が渋滞し遅々として車が進まなかつたためか、あるいは久しぶりに大都会の美人が見られるためか（実際、思わず妻子がいることを一瞬忘れてしまうような美人が来りました。）途中で鎮静剤（本当かな？）を飲む者もいました。

とにかく開会式ギリギリの十時三十分会場へ到着し、多少行き違いもありましたが、無事「三春茶屋」も開店いたしました。又、到着と同時に荒獅子・ひよつとこ踊りの代表者とともに、中野区長を表敬訪問し、この区長室において獅子舞を舞ってきました。この日荒獅子は、区役所前で一回、サンプラザ前広場で三回、ブロードウェイ商店街で一回。ひよつとこ踊りの方は広場前と商店街の中で各一回ずつと、区商連の方々の好意により最優先で踊らせていただきました。初日ということで、人出がいまひとつでしたし、サンプラザ前広場も閑散としていました。獅子舞、ひよつとこ踊りの時には、たくさんの方が集まって来

ましたので、大いに自信が持てました。翌日も獅子舞はサンプラザ前広場で二回、ブロードウェイ商店街で一回そして模擬店出店場所と同じく一回舞いました。ひよつとこ踊りの方はサンプラザ前広場で一回、模擬店出店場所三回踊りました。この数字をみてもわかる様に、区商連の人々にも大いに喜ばれ、彼らにとっては想像以上の効果があった様です。

一方、模擬店のほうですが、地酒の試飲会は無料でしたので、好評を博し初日で予定分が全々なくなってしまうそうなので、分量を少なくして飲んでもらった程度でした。そして最終的には、佐藤酒造さんにいただいて行った分は全て飲んでもらって来ました。トコロ



このサクラに気付くのが遅かったと、今でも悔やんでいます。売店では、蒸し蒸しするので喉を湿らそうとビールを飲んで、大声張り上げて呼び込みするので、全く酔いませんでした。

この様な状態で二日間が過ぎた訳ですが、日帰りで三春に帰って来た人達、中野に泊った人達、ともに帰宅は十一時を過ぎていたようです。本当にハードスケジュールにより無事遂行できましたことを、心より深謝いたします。

次記の皆様方、御協力まことにありがとうございます。

大町支部

三沢 栄光



中町支部

横田 誠  
橋本 俊宏

荒町支部

加藤木久芳  
加藤木雄一  
佐藤 憲一  
佐藤 次男  
伊藤 清春  
伊藤 正雄  
伊藤 敏  
伊藤 一正  
池上 明  
池上 保  
儀同 喜勝  
儀同 公治  
渡辺 則善  
中根 久幸  
影山 正十  
佐久間光生  
渡辺 宏二  
橋本 清孝  
小林 利春  
荒川 力男  
桑原 弘道  
今泉 栄治  
菊地 武男  
堂山 武英  
三瓶 一寿  
山口 秀男  
折橋 健  
山口 一郎  
細川 寿男  
吉田 由三  
桜井日出男  
箭内 孝章  
増子 弘昌  
佐藤 栄一

八幡町支部

吉村 剛  
松本 充弘  
渡辺 雅晴  
清水 健一  
遠藤 又和

北町支部

村田 信一

新町支部

白岩 孝吉  
半田 弘

事務局

宗像宗千代  
高橋 健吾  
佐久間正名  
大内 進  
赤沼 活明  
佐久間 豊

（順不同、敬称略）  
以上 参加者 五三名  
延人数 八一名

# 中野商業まつり決算書

◎ 収入の部 1,160,149円

青年部会計繰入金	300,000
町役場補助金	100,000
商工会補助金	100,000
町観光協会補助金	100,000
事業収益金 (Tシャツ・トコロ天等販売額)	560,149

◎ 支出の部 1,147,660円

◇ 交通費 194,210円	
マイクロバス借上料 150,000	・ 高速料 36,800
タクシー代 7,410	
◇ 宿泊関係費 41,140円	
ブロードウェー宿泊費 18,000	・ 貸布団代 21,000
江古田集会所使用料 1,100	・ 風呂代 1,040
◇ 食事費 178,000円	
8月2日食事代 78,000	・ 8月3日食事代 79,300
朝食弁当代 20,700	
◇ 模擬店出店関係費 20,000円	
模擬店場所代 16,000	・ 商業まつりTシャツ代 4,000
◇ イベント関係費 104,800円	
荒獅子 80,000	・ ひょっこり踊り 24,800
◇ 模擬店仕入関係費 526,490円	
Tシャツ製造経費 434,280	・ ところ天代 34,480
張子面代外 57,730	
	(抽選景品・現地手土産代も含む)
◇ 障害保険料 26,049円	
◇ 手土産代 7,060円	
◇ 消耗品代 49,911円	

## 「事業所座談会」報告

### 総務委員会

参加者プロフィール

◎日本化学工業㈱

橋本 一吉 殿

郡山市中田町

勤務歴十二年

荒井 勝子 殿

郡山市西田町

勤務歴一年

◎平岡リース㈱

遠藤 四郎 殿

三春町熊耳

勤務歴十九年

橋本リエ子 殿

船引町芦沢

勤務歴二年

◎三春工業㈱

佐久間信子 殿

三春町沢石

勤務歴十二年

安部 カヨ 殿

三春町込木

勤務歴十三年

◎三春製作所㈱

佐久間信也 殿

三春町沢石

勤務歴六年

橋本 恵子 殿

三春町御木沢

勤務歴六年

橋本 絹子 殿

三春町沢石

勤務歴五年

◎青年部

副部長

半田 弘

清水 健一

三沢 栄光

橋本 俊宏

染谷 憲一

総務委員会

「質問一、皆さんはどうして三春の会社にお勤めになったのですか。」  
意外に思ったのは、ほとんどの人が学業終了の時点で、県外に勤めるということを眼中に置いていない、ということでした。理由はそれぞれ異なりますが、年齢的には華やかなる都会生活に憧れる時なのでしょうが、雑踏で騒々しい都会より、生まれ育った町(不満も多いが)を離れたくない、ということは、喜ばしいことですね。

『質問二、三春町にどんな公共施設があったら良いと思いますか。』  
当然の様に出来て来て、最も多かったのが駐車場ということでした。この他に次の様な話しも出ました。

『小さい頃からの夢だったのですが、美術室や図書室あるい

は音楽室といった様なものがひとつの建物の中にあり、ゆっくりお茶が飲める様な多目的ホールがあったら良いと思う。というの、店の前に車を止められない、ということもあるが、三春に来ては何気なく時間を過ごすことの出来る居場所が無い、と強く感じますから。』

『三春駅から町内に来る道路に街路灯がないが、駅通りは言わば町の玄関、町の顔であるのだから、この通りの街路灯整備は必要ではないでしょうか。今は寂しいという感じより、恐いという感じがする。』

『今は夫婦共稼ぎが多くなっている、管理者がいる中で、子供達が自由に時を過ごせる様な施設が町の真中にあつたら良いと思う。私は歴史民俗資料館よりこの様な施設を先に作らなければならなかったと思います。というのは、現在までを見ていると老人の骨董品趣味を満足させる建物のように、三春町の規模で作る維持して行くべき施設ではない、と感じるからです。貴重な町民の寄付をおおいだのに対しては、あの建物からは将来に向けての発展性というものを感じられないのは、私だけでしょうか。』

『事業所に於いては、体育サークル等を作って活動しており、数年前までは地元の学校施設を利用していました。しかし最近

は地域住民のグループが使用するのには良いのですが、企業には貸し出してくれなくなりまし

た。町民体育館を使ってくれ、ということなのでしょうが、会社が終わってからは、一時間ぐらいいしか使うことが出来ません。又、体育館等は年度初めに利用計画を決めています、企業に於いては受注状況に応じなければいけませんから、年間計画に組み入れてもらっても、実際に利用できる訳ではありません。以上のような理由で、面倒だということから、私のところは三春の企業でありながら、気持ちよく貸してくれる他町村の施設を利用するようになって来ています。出来ることなら、学校体育施設の解放をお願いしたい。』

これを読んで同感する人・憤慨する人様々でしょうが、この中でちょっと気になるのが、最後の学校施設利用の件です。就業状況の変化により企業従事者が多くなり、経済環境の変化により企業で過ごす時間が多くなつてきています。これに加え高度技術の取得の必要性が、以前にも増して重要となつて来ています。昨今では、企業内の和が企業発展の主因といつて過言ではありません。この和を創るために

行なう企業の体育活動等を施設面に於いて締め出す、ということには、施設管理の問題もあるでしょうが、なにかスッキリしませ

んね。

### 『質問三、三春の商店をどう思いますか。』

この問題に関しては、駐車場の件はぬいて話してもらうことにしましたが、考えなければならぬ点が多いので、箇条書きで全ての意見を書くことに致します。

一、電話一本で配達してくれ、顔見知りになると値引きしてくれるので助かる。大型店には何でも揃えてあるので買いに行くことになるが、高価なもの、良いものをとると、アフターサービスの件があるので、個人の店で買うことにしている。

一、三春は昔から殿様商売とも言われるが、現在もそんな感じで入りにくい。これに加え客が入っていないし、暗い感じがするし、流行遅れも目立つ。品数も少ないし、値段も高い。

一、現在の買物行動は、単なる買物でなく遊びの要素(娯楽性)を多く含んだものになっている。その要素が三春にはない。

一、町外の人なんかは、三春は歴史と文化の町というイメージがあるが、だんだんこのイメージに合わなくなつて来ています。喜多方の様に古さがしみ込んだ町(娯楽性を加味し、

何か郷愁を感じさせる町という風に形造つて行くのも必要ではなからうか。

一、横に広がった商店街ばかりでなく、縦に伸びたショッピング・パークの様なものを作り、このあいたスペースを憩いの広場的なものに使うことを考えては。

一、会社が終わってから、あるいは残業してから買物をしようと思つても、三春の店は全て閉まっているので、直接富久山のベニマルに行くことになる。ガソリンスタンドについても同じである。何とか営業時間の延長が考えられないだろうか。

以上が主な意見ですが、次の様なユニークな考えもありました。

『営業時間延長は、現在の町民の就業状況から見ると、三春の商店で考えなければならぬ課題のひとつであるが、毎日延長するのはやはり大変であろう。一週間に一度でも良いから曜日を決めて全町で時間延長を行う様にすれば、そしてこれを積極的にPRし、定着させることになれば、買物客が戻って来るのではないのでしょうか。』

『工場には昼休みに移動販売の方が来ます。マイクロバスで通っている主婦も多いので、大変助かっています。しかし、三春の業者の方は少ないですね。

もっと多くの業種の方が移動販売に来てもらえると、よろしいのですがね。』

『三春町を観光で売り出そうというのはスケベ根性以外のなものでもないですね。郡山に近いから、郡山と違った町づくりをしなければならぬ。そのためには、歴史と文化で売ろうという考え自体が落し穴に入っているのではないのでしょうか。』

『今の若者は別に観光にこだわっていない。もつと若者が自由に歩き、休む喫茶店を作るといふ様な新しさの導入の方を望んでいるのではないだろうか。』

### 『質問四、三春にあつて欲しい業種は?』

この質問に対しては、喫茶店やファーストフード店、誰もが気楽に入れて、みんなで騒げかつ秘密が守れる飲み屋さんが欲しいとの声が多く出ました。又、ベニマルに入ろうか、それとも、こちらの店にしようかと惑わせるようなショッピング・センターが欲しいとの声もありました。この他にも、多くの質問に答えていただきましたが、紙面に都合がありますので、このへんで終わらせていただきますが、この座談会に出席して下さった皆さん、又、快くこの事業に協力していただいた事業所の皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

# 事業報告

## ※総務委員会

○六十一年十一月十日

第六回まちづくり勉強会

二二名参加

テーマ『これから十年間の町の計画について』

講師 役場企画室 企画係長

田中金弥氏

○六十一年十一月二十一日

町内事業所従業員さん座談会

九名参加

## ※厚生委員会

○六十一年七月二十二日

献血実施 一八名協力

次の皆様、御協力ありがとうございました。おかげさまで表彰を受けました。

### 大町支部

大沢 英昭・橋元 勝紀

### 中町支部

麻野 清一・遠藤 貞祐

栗原 正明・村山 仁

横田 誠

### 荒町支部

今泉 栄治・増子 弘昌

渡辺 宏二・渡辺 則善

### 八幡町支部

遠藤 又和・清水 健一

柳沼 久勝・渡辺 輝雄

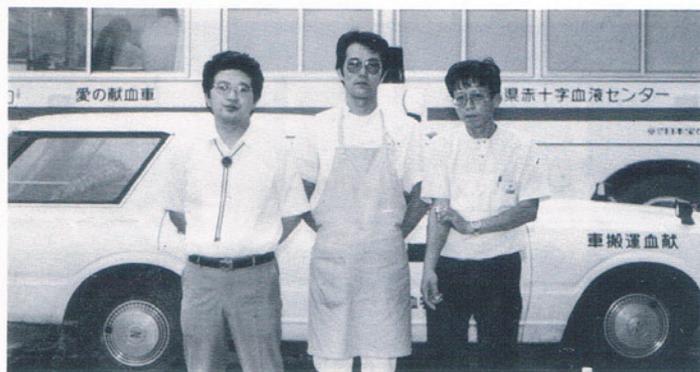
渡辺 雅晴

### 新町支部

白岩 孝吉・佐久間 豊

○六十二年二月十四日

新年会 四五名参加



## ※体育委員会

○六十一年七月十四日

委員会対抗バレーボール大会

四二名参加

優勝 体育委員会

準優勝 経営対策委員会

○六十一年十一月二日

支部対抗ソフトボール大会

四九名参加

優勝 大町支部

## ※教養委員会

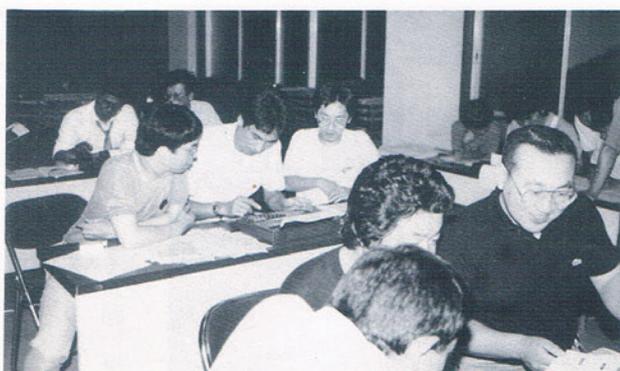
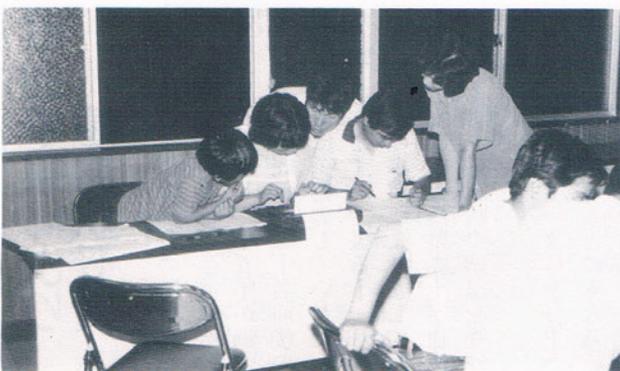
○六十一年七月九日

ワープロ教室

講師 三沢栄光

青年部会計

一五名参加



※本部

○六十二年四月十三日

植樹の実施 三一名参加

参加者 大町六名・中町五名

荒町五名・八幡町四名・北町

四名・新町七名

○同日

役場脇駐車場・観光案内板

補修

○六十二年七月二十五日

田村郡商工会親善野球大会

優勝 都路村商工会

一回戦 三春八―七船引

三塁打を小笛宏君打ち、

最終回到二点のハンデを

碎きサヨナラ勝ちをおさ

める。

二回戦 三春三―一〇都路

三塁打を日本化学の木下

定美君、二塁打を渡辺宏

二君がはなったが、パワ

ーにまさる都路村チーム

に打ち負け完敗。

○六十一年八月二―三日

中野商業まつり参加

延べ人数八一名

参加者 大町一名・中町三名

荒町三五名・八幡町五名・北

町一名・新町二名

○六十一年十一月十一日

岩手県胆沢町商工会青年部

来会 一五名

○六十一年十一月十三日

山形県遊佐町商工会青年部

来会 一一名

右記二商工会青年部と交換研修

会



### 献血事業により 感謝状受賞!

前々任の渡辺攻部長の時から始めた献血も、青年部厚生委員会の事業として定着し、早五年が過ぎました。この間毎回二十名前後の部員の皆様に御協力していただいた訳であります。去る十一月十一日に、この事業によりまして婦人部とともに、福島県赤十字血液センターより感謝状の贈呈を受けました。

自分の健康チェックにもなるし、血液需要に応ずることにもなると始めたのですが感謝状をもらうと、やはりうれしいものですね。

これからも、この事業への参加御協力方、何卒よろしく願ひ申し上げます。

